

# ぼんぼん 1986 No.76

事務局:〒 長崎市 津田尚美方 (TEL )  
編集人:葛西よう子:〒 長崎市

## 大阪、ワメンズ クリニック 紹介 津田 尚美

「ぼんぼん」二月号(1970)で「女性のためのクリニクス」というのを御紹介しました。大阪中東区玉造このころに「女性のためのクリニクス準備会」がどうオオスエをひまえて活動して下さるまじやんごで元気印そのものの女のグループです。いとも私達ぼんぼんワメン達は大阪から送られて来る彼女達のメッセージにカッつけられて来ました。六月十四、十五の両日、私達は事務局として下さる津田尚美さんと大阪へ派遣し、実際に活動の様子をみる来てもらいました。

たくさんの方が自分自身の体について様々の問題を抱えている。その体に関することは特に性に対するタイプともかわりあつて、元来男中心の医療、社会の中とは充分に取り上げられて来ていない。女の立場にたつた、女の為の医療を作るとは即ち、女のスタンスによる病態を作る事では無く、相違自身の、自分の体に対する意識変革をしよう。自分自身で力を付ける事から始まる。という事で「女性のためのクリニクス」を作ろうとしようか大阪に出来て二年、それぞれが彼女達の運動をお知らせします。



自分の体を見てもいい、自分の子宮口を見てみたいというのがアメリカがフェミニズムの運動をしようとする女達の仕事に器具を輸入し、自分で身入して、下に鏡を当てて見る。ほじろを見る私の内部にびっくり。と同時に「ああ、私のあゝ」と肩に入れた力がスワを抜けて行く様を気分(スベキラムは千三百円で彼女達が売ってる)。そして助産婦さんに手伝ってもらって、「ベアリ」を入れ確認する。自分の体に慣れ、仲良くしなれば「ハ...」と皆が体験し、語り合う。

映画上映 「中絶、北と南の女達」 四百人が集まった連続学習会 「中絶」「避妊」「一人を悩ませない更年期」 等々 「女の生と避妊」はパートII、パートIIIと続く

鍼灸治療 鍼灸師 小池まさ子さんによるオオ、オ四

金曜日 午後三時から 会員二千円 一般三千円 色々の賃由にも  
も答えて下さる。 予約制

本の出版 「中絶—女たちのメセージ」 (定価千円 三ヶ月)  
四千部印刷

講演会 「生む性からの真実」 産婦人科医 佐々木静子さん  
「女の心から」 看護婦 助産婦 赤松彰子さん

「女の心から」の相談室 毎週水曜日 午後 赤松さん担当  
合宿 子宮筋腫手術のビデオを見たり 話し合いをしたり。

事務所 大阪中東区玉造 このものエッセイのクリニック準備会が  
Tel 06-764-7001 振替郵便 0-45309

二階建ての倉庫だ。建物をかろうけ、イスの部屋  
のための敷の部屋、キッチン、風呂、トイレ、冷暖房付  
志と同じくする女性達の宿所も可能

専従の宇野澄江さん  
今迄の職をやめ、自費で十ヶ月間、アネカ、セのたのクリニック  
視察に行き、そこで共に働いて来た。アネカの婦人団体との  
交流もして来た。今、事務所に住み込み、常時事務所  
は開いている。

資金作り 会員みんなコンドームと売ってる。

### 優生保護法 改悪反対運動

改悪反対運動ははじめた時、私は素朴に  
反対した。名前がおかし、劣性は切るといふ事

三つ名前の法律によって望まない妊娠の規定される。どう  
事件は下々来てる。今は五六万千人という数字が出てくる。

どうして中絶という個人的なことで宗教もバラバラも政治団体  
も、個人にはまわくも、生めない、と言っているのに、生まねば

ならぬ、と国が法律でもう生ませるといふは、女の人生は人間の  
人生ではなくなる。二十世紀は女の仕事を許して生まれる時代

が来るだろう。何時、何人生か、一人一人の人生の中で、決め  
られない。望まない妊娠をした時、生めようのは自分の人生を

え、ふん人を法律で罰する事。もしこの法律が中絶を許し  
る経済的理由 (99%は元々中絶して) がなくなる、刑罰の

堕胎罪は現存とどうして自分の意志で中絶すると女と医師  
が罰される。女の自己決定、理由を問わず中絶が出来る制度

を作らねばならぬ。女の生ませ方は国から規制されてはならない。  
女は女、出産は決定的行為といえる (出産で精子の持主

は死んだリレナリ) 愛情があれば話し合はる。しかし決める

は死んだリレナリ) 愛情があれば話し合はる。しかし決める

三つ名前の法律のメセージにふれてみたいと単純に思い立ち  
思い切って大阪迄出かけた。梅雨の雑踏の中を「あざ  
日本の都合、二の中にさう……」と思いつく、彼女等に逢い  
した。「あなた方の執意には負けました」と講演をたのみに  
行ったりするとお言われる。どう彼女達のすばらしいメセージ  
三千円台、三千円台が多い。しかも若々しい力強く、明るく  
本当にすばらしいものだった。  
「もう進むのやない」とロクセのようと言う彼女達  
これは実に遠く都会の話してはならないと思ひました  
私達の仲間と争奪の事です。



六月十四日夜、  
女のためのクリニック準備会 '85  
発足一周年記念 講演会

「わたし、  
わたしたちのおあい」  
ヤンソノ由美子 さん

次頁に、津田尚美さんが持ち帰ったテープをもとに  
講演会のあらましをお伝えます。

のは、最終決定者は女である。ことをあきらめ、男が  
女の人生を牛耳る事になる。この運動の中で得た正義と熱血  
の人に佐々木静子さんびら。

富子見病院事件、に関する講演会を佐々木さんは言った  
千人をこえる女達の子宮、両方の卵巣を

取る事、どうして医師達に出来たのか、女一人一人の体は自  
分のもの、自分の人生は自分の体で生きる。とせ、最終的に自分の  
事を自分で決められたの、この事件の本質、権威と押しつける医

者、超音波という時、日本に数台しかない機械、ほとんど  
人が参るし、その時、女の体について医師養成する時、王下

を作り教えるのは男、どうして視覚、触覚、嗅覚、味覚、かかどうしい  
女性の生殖器の機能は…… 機能を果し終った、又は果せば

ものは手術、ことごとく、どう解がある、しかし全身、髪  
髪、髪の毛、だいたい、癒傷感、は、生、決定を下したのは全

員男、自身医師の身、さうして佐々木さんは、専業主婦、科  
科、学、方、能、を、止、め、たい、と、オ、オ、オ、の、富、子、見、病、院、事、件、が、あ、り、と

い、て、る。自分の体を知る、には、た、ま、ま、の、情、報、が、必、要、そ、し  
て、する、場、に、二、の、ク、リ、ニ、ク、が、あ、る、と、ほ、し、い、い、

い、て、る。自分の体を知る、には、た、ま、ま、の、情、報、が、必、要、そ、し  
て、する、場、に、二、の、ク、リ、ニ、ク、が、あ、る、と、ほ、し、い、い、

い、て、る。自分の体を知る、には、た、ま、ま、の、情、報、が、必、要、そ、し  
て、する、場、に、二、の、ク、リ、ニ、ク、が、あ、る、と、ほ、し、い、い、

ール、現在厚生者は解禁にあつて動きはじめである。三三三  
 先には解禁の見通し、理由とと医者の表向うに言  
 るのは副作用の心配はほとんどない、吹米は使用してゐるの三三三  
 六七年よりカゴ解禁されて、女の見かたをコントロールする菓  
 と女性解放の新しいカゴを取り入れられた。三三三年後の今日  
 昨秋の「ミス」(雑誌)によるとほとんどの人の足の痛みもみ視  
 カ低下、頭痛、息切れ、どうも等々の循環器障害、トナヤン、  
 長期間ホルモンが体に蓄積されると臓器作用につたひる。  
 人エホルモンを長期間体内に入れてきた事は历史上はじめて。  
 現在アメリカではピルを使う人は減つており、オーストラリアでも  
 する人、糖尿のある人、その他は不可、片足の連続も不可と  
 なるか、ヨロバは避妊方の一位をコントロールにやめた。  
 今、ピルは吹米の知識ある女性に使ふべき事と知るほしい  
 性者のリスクはもと男が持つべきだ。その他レントゲン、超音波  
 体外受精、精子銀行、すべて(+)と(+)は未だ解明されてい  
 ない。人命を作る、だが、どうも意識して作るのか、とも  
 おそろしいと思う。生殖とは、女性として人間にこそ、どうや  
 事なのか、しるべきでほしい。

### 男が偉いのは特権があるから

私は明治生まれ大正時代の父、  
 和伯父、その友人たちを見、  
 して、男は女より一段上の存  
 在だと思つて育つてきた。  
 映画界に入つても恵まれた環  
 境で良きプロデューサー、優れ  
 交際相手たちもその指導を受け  
 なり、若くして一流の人たちと  
 交わる機会も多かったのだ。女  
 より一段優れた男という信念は  
 崩れることはなく、社会の人生  
 の大事は判断はやはり男性でな  
 ければならないと信じていた。  
 「もともと私自身、社会の運命  
 の口にはうらみ出され、愚を言  
 った競争の中に巻き込まれてみ  
 る。男性の欠点も、また男で  
 あるための悲しみも見え、しよ  
 せん男も女も同じなと思うと  
 ようになった。  
 男性の方が視野が広く的確な  
 判断が下せ、公正に物事を進め  
 られると尊敬してゐたのは、男  
 にはそれだけの地位や特権が与  
 えられていたからで、女は、女  
 のいうことではないが、にされ  
 ていた婦人の重なりが女が偉く  
 なれない原因だ。  
 もっとも、女の方も「私は女  
 なのだから」と安易なほうに逃  
 げる弱さや怠惰さがあり、私自  
 身も人生に寝たこと、早く

張つた男性の優越しき、と女  
 に同情する今日のこの世にお  
 る。(ロサンゼルス 杉葉子  
 57 元女優)  
 杉葉子は戦後E  
 ットした青春映画  
 「青い山脈」の主役女優。昭和  
 三十七年、アメリカ人エンジニ  
 アと結婚してハイソ、米國へ。現  
 在、ロサンゼルスの日米人町リ  
 トル東路にあるホテルの海外マ  
 ネージャーとして活躍している。



### ぼんワマン 六月例会

一回どうして「良イネー」として「新南」を御紹介  
 します。朝日新聞の「男と女」という投書欄です。六月の  
 はじめに掲載されたもので、日頃考へ、感じている事が、ガシガ  
 と出ています。それにともなふ、この「青い山脈」の杉葉子さん、

